

の柱に立籠めてゐる（寫眞は芝田校長〔写真省略〕）

（昭和十一年十一月十五日『東京毎夕新聞』）

しかし、解決に至らず、左記の正木直彦の『十三松堂日記』の記述が示すように、内密の教授候補者選びが行われたりしたものの、進展はなく、結局この問題は昭和十九年の大改革の要因として潜伏することになった。

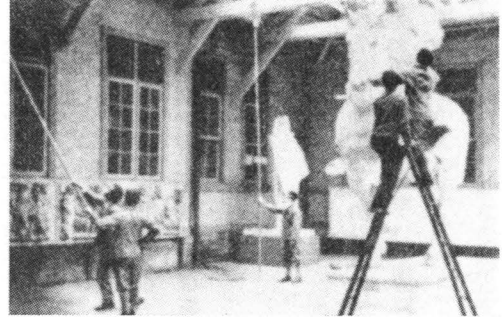
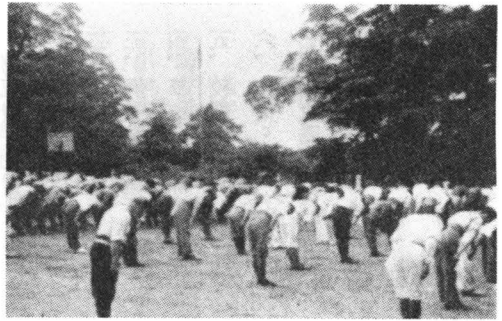
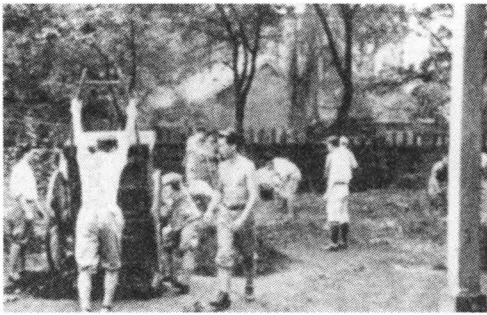
〔昭和十二年〕

六月二十一日……夜矢澤弦月 吉村忠夫兩人來りて藝術院の事學校改革の世評などにつきて罪念に堪へずと學校の近況を話す
美術學校出身者の琮々たる人々にて東臯會を結成せることの報告を爲したり

九月十日……夜吉村忠夫來訪 美術學校校長芝田氏 鏑木清方氏を
訪ひ美術學校教育の事に付き意見を徴されたり 而して吉村氏を
召致して此事を話し吉村氏にして余を助けるならば芝田氏の
意見に隨ふてもよい 尙安田軼彦氏受諾するならば自分は喜んで
就職すへしといひたりと内密の話なれと申上置くといへり
十一月十七日……松岡映丘氏來訪 文展開會後の状態 美術學校
改革に付き意見を述べられたり

⑦ 集団勤勞作業の始まり

昭和十三年六月九日、文部省は「集团的勤勞作業運動実施ニ関スル件」の通牒を發し、翌十四日よりその恒久化を進めた。本校でも



結城素明撮影 集団勤勞スナップ（『美育』第14卷9号（昭和13年9月）より転載）

これに基づいて昭和十三年の夏季休業前に集団勤労作業が実施された。関連文書を左に掲げる。

過般文部省ヨリ今夏季休業中ノ前後ニ於テ凡五日間職員生徒一體トナリ集團勤勞作業實施スベキ旨ノ通牒ニ基キ去ル五日主任理事會ヲ開催シ之ガ實施事項ニ就キ協議致シ候處別紙要項ノ通り決定 來ル七月十一日ヨリ實施スルコト、相成リ候ニ付御參加相煩シ度此段及通知候也。

追テ職員ハ五日間毎日御出勤相成度 別表ニ割當ナキ日ニハ本部付トシ隨時各般ノ作業ヲ御分擔相願度申添候

昭和十三年七月九日

職員御中

東京美術學校

東京美術學校集團勤勞作業實施要項

期間 自昭和十三年七月十一日 至 同十五日 五日間

第一日 七月十一日(月曜日)(午前七時三十分校庭集合)

- 一、國旗掲揚
- 二、國歌合唱
- 三、宮城遙拜
- 四、伊勢神宮遙拜
- 五、校長訓話
- 六、ラヂオ體操
- 七、作業ニ就テ班別編成其ノ他指示事項

八、作業……(自午前八時三十分至同十一時三十分)

九、國旗降下(校庭集合)

第二日 七月十二日(火曜日)(午前七時三十分校庭集合)

一、國旗掲揚

二、宮城遙拜

三、伊勢神宮遙拜

四、ラヂオ體操

五、校歌合唱

六、作業……(自午前八時至同十一時三十分)

七、國旗降下(校庭集合)

第三日 七月十三日(水曜日)

第四日 七月十四日(木曜日) 第二日ニ同シ

第五日 七月十五日(金曜日)(午前七時三十分校庭集合)

- 一、國旗掲揚
 - 二、宮城遙拜
 - 三、伊勢神宮遙拜
 - 四、ラヂオ體操
 - 五、校歌合唱
 - 六、作業……(自午前八時至同十一時三十分)
 - 七、國旗降下(校庭集合)
 - 八、校長挨拶
 - 九、萬歳三唱 解散 終り
- 作業實施ニ就テ

- 一、服装ハ作業服及卷脚絆トシ地下足袋（又ハ靴）ヲ穿ツコト
- 二、班長ハ作業終ラバ班員ヲ運動場へ誘導シ解散後出席人名ヲ本部ニ報告スルモノトス
- 三、擔任區域ハ多少廣狹アリト雖互ニ連絡協調シ遺漏ナキヲ期スルコト
- 四、校庭清掃班ニハ鎌、熊手、箒、パイスケ、花壇班ニハ鋏、シヤベル、鎌、箒、室内清掃班ニハハタキ、箒、馬穴、塵取、シ雑布等ヲ會計掛ヨリ受領シ作業終ラバ直チニ返納スベシ
- 五、作業中ハ特ニ不規律ニ涉ラザル様特ニ注意セラレタシ
- 六、作業中負傷シタルトキハ本部ニ出頭シ手當ヲ受クルコト
- 七、本部ハ校長室トシ岡田教授藤島教授六角教授野口教授大澤講師ハ本部附トス
- 八、最後ノ作業終了時ハ電鈴ヲ以テ報スヘシ

〔特殊文書綴務^{庶務}〕各班区分表は省略

かくて、校内清掃程度の軽作業から始まった集団勤労作業であったが、翌十四年（七月五日〜九日）の場合は生徒に対して「コノ勤労作業ハ文部省ノ方針ニ基キ出缺點檢等正科ニ準シテ行フモノトス」という強制的指示がなされ、勤労場所も校内でなく、東京市興亜勤労訓練所（京王電車仙川下車）と調布飛行場建設地（京王電車上石原下車）との二カ所となり、前者には一泊することとなった。そして、教官と生徒は教練服、巻きゲートル、古靴または地下足袋を着装して水筒、弁当持参で早朝に京王電車新宿駅に集合して目的地へ向かったのであった。

ところで、昭和十年代の本校生の学生生活を軽妙な漫画と文で綴った恰好の資料として権田竜太郎著『振りかえってみると』（平成六年、私家版）がある。権田は昭和十三年本校に入学し、彫刻科製造部を同十八年九月に卒業した。勤労作業に関する部分を引用する。

こつぶの握りめし天ブラ

「勤労奉仕」という仕事が始って間もない頃、上野公園の清掃奉仕がおこなわれた。科学博物館前の広場に集合。開始すると人員はめっきり小人数？ 大部分は山を下りて永藤あたりへめぐりこんだらしい。

休憩の時間に誰か「握りめし弁当」のつみみを開いた。中には珍らしくピンポン玉ほどの小さなにぎりめし……がいっぱい……しかも油で揚げてある。好奇の目が集中する……。つまむとポロ／＼とくずれてしまうが空腹なのでうまく、たちまち売切れ……

お湯の係どこへいった？

三鷹天文台の近くの雑木林を開墾して、飛行場を作るといふ。立ち木は伐採されて、大・小ささまざまな根っ子がのこっている。その根っ子の掘り出し作業のためにかり出された。

我々が作業に汗を流している五十米^{メートル}ぐらい先の方に、うす青い服をきた囚人の一群が、銃をもった監視官にかこまれて無言で同じ仕事をしていた。

湯茶係の小生ら三人が、作業から離れて、事務所へヤカンにお

湯を取りにきた時、一天俄かにかきくもって、物すごい大夕立となった。あわてて近くのコンクリのドカンにもぐりこんだ。雨の勢いはさっぱりおとろえぬ。たいくつまぎれに唄い出した。チャカホイ節やヨカチン等々。トナリのドカンに「從三位」の校長閣下がもぐりこんでるとはつゆ知らず……。

いやな客ども

一日の勤勞奉仕作業（三鷹飛行場造りの整地）が終ると汗とドロまみれのまゝで京王電車にとびのって新宿へもどり、伊勢丹の屋上へ直行する。屋上のビヤホールも夕方だと喫茶もできる

第一の目的は、このつめたいタオルで汗だらけの顔や腕などをふくためだ。何とも気分爽快……然しキレイナタオルもかなりよごれて気がひける

コーヒー一杯でネオンが光り出すまでねばられたのでは伊勢丹としてもあまりいい客として歓迎はできないだろうな

勤勞奉仕（皇居前広場の整備作業 当時……宮城と呼んだ）力士の団体、宗教の団体その他多くの団体にまじって、我々美校でも作業に参加した。

ガッチリした大八車へ石垣用のゴツゴツした石のカタマリをのせて、警視庁の方迄運ぶ重い作業だ。車に山のように積んで運ぶグループもあればたった一つの石を五、六人で一台の車、カケ声とスピードだけが派手なグループもあり石コロが車の上でおどっている。

一日の仕事が終ると全員集合で陸軍少将が講評をしたが美校グループは一度もほめられたことがなかった。

⑧ ヒットラー・ユージェント来校

昭和十一年十一月二十五日に日独防共協定が調印されて以来、日独兩國は急速に協調を深めたが、文化的協調運動の一環としてヒットラー・ユージェントが来日し、一行は昭和十三年九月二十七日に本校や東京音楽学校を訪れた。当日の様子を翌二十八日付『万朝報』は次のように伝えている。

昨日は美術音楽の粹に觸れる

ヒットラー・ユージェント

廿六日鎌倉、箱根方面から歸京したヒットラー・ユージェント一行は廿七日午前九時三十分から東京中央卸市場を見學、ついで上野に東京美術學校を訪問、日本美術教育の實情を見學、ついで午後は二時から上野東京府美術館に目下開催中の院展を見學、日本傳統の深遠幽玄の繪畫美に陶醉一時間の見物の後三時から東京音楽學校の歡迎演奏會に臨んだ、プログラムは第一部邦樂觀世左近さんの船辨慶、宮城道雄さんのうてや鼓、或は長唄越後獅子等を聞き更に第二部洋樂では音楽學校生徒の獨逸國歌、ナチスの歌、ヒットラー・ユージェント歡迎の歌の合唱があり祖國の歌の響きにヒットラー・ユージェントも共に唱和、音楽に結ばれた強い日獨交驩風景を描き出し、更に愛國行進曲、ベートヴェン作曲彌撒曲等の合唱演奏があり最後に君が代が代が嚴かに齊唱されて歡迎演奏會を閉じた、夜は午後六時よりオットー獨逸大使の招待晚餐會に臨んで祖國の話題に花を咲かせた